

宇宙研究 魅力知って

弘前

宇宙研究の魅力を高校生らに知ってもらおうと、弘前大学宇宙物理学研究センターは10日、同大学理工学部1号館で講演会を開いた。ブラックホール研究の最前線や、

弘大センター講演会

教授ら2人 高校生に解説

明治時代の本県の天文学者について教授ら2人が分かりやすく解説した。講演会は、今春の同センター開設を記念して開催。45人が来場し、約30人がオンラインで参加し

最前線の研究では、ブラックホール同士が合体の画像が撮影された」と説明した。

弘大の倉又秀一名誉教授は、八戸市出身の天文愛好家・前原寅吉を「天

た。

センター長の浅田秀樹教授は、目に見えず理論上の存在に過ぎなかったブラックホールが観測技術の進歩によって徐々に姿を現し、近年では輪郭

する時の「揺れ」を観測するため、米国や日本などのチームが準備を進めており、浅田教授は「理論上の値と観測した値が合えば、ブラックホールが存在する強力な証明になる」と語った。



ブラックホール研究の最前線について解説する浅田教授



明治時代の本県の天文学者を紹介する倉又名誉教授

文学の普及に努め、小惑星の名前にもなっている」と、つがる市出身で日本天文学会設立に尽力した一戸直蔵を「当時の研究者より半世紀早い考え方を持っていた」と紹介。参加者に「2人の好奇心や集中力、実行力を学んでほしい」と呼びかけた。(赤田和俊)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]

弘前大学理工学研究科

E-mail:

r_koho@hirosaki-u.ac.jp